

審 議 (会 議) 結 果

次の審議会等を下記のとおり開催した。

審議会等名称	神奈川県災害医療対策会議
開催日時	平成 28 年 3 月 22 日 (火) 19 : 00 ~ 20 : 30
開催場所	神奈川県総合医療会館 1 階 AB 会議室 (横浜市中区富士見町 3 - 1)
(役 職 名) 出席者	<p>神奈川県医師会副会長 菊岡正和 神奈川県医師会理事 (神奈川県災害医療コーディネーター) 小林信男 (会長) 神奈川県医師会理事 (神奈川県災害医療コーディネーター) 亀谷雄一郎 神奈川県病院協会常務理事 三角隆彦 神奈川県歯科医師会理事 村田拓也 神奈川県薬剤師会副会長 後藤知良 神奈川県精神科病院協会理事 山口哲顕 神奈川県災害医療拠点病院連絡協議会運営調整会議副運営委員長 金井歳雄 北里大学病院救命救急・災害医療センター長 (神奈川県災害医療コーディネーター) 浅利靖 藤沢市民病院救命救急センター長 (神奈川県災害医療コーディネーター) 阿南英明 (副会長) 川崎市立井田病院救急センター所長 (神奈川県災害医療コーディネーター) 鈴木貴博 東海大学医学部付属病院医学部救命救急医学准教授 (神奈川県災害医療コーディネーター) 中川儀英 神奈川県立循環器呼吸器病センター所長 (神奈川県災害医療コーディネーター) 中沢明紀 横浜市立大学大学院医学研究科・医学部医学科救急医学教室主任教授 (神奈川県災害医療コーディネーター) 森村尚登 (副会長) 聖マリアンナ医科大学病院救命救急センター副センター長 (神奈川県災害医療コーディネーター) 和田崇文 日本赤十字社神奈川県支部事業部救護課長 笹子敦 第三管区海上保安本部警備救難部環境防災課長 三浦淳 (代理出席あり) 神奈川県警察本部警備部危機管理対策課長 青山利史 (代理出席あり) 横浜市医療局がん・疾病対策課救急・災害医療担当課長 黒岩大輔 川崎市健康福祉局医療政策推進室担当課長 水谷晋一 相模原市健康福祉局福祉部地域医療課長 鈴木泰明 (代理出席あり) 横須賀市健康部次長 (地域医療推進課長) 惣田晃</p>

	藤沢市保健所地域保健課長 大森利一 神奈川県都市衛生行政協議会代表 （伊勢原市保健福祉部長兼健康管理課長） 坂間敦（代理出席あり） 神奈川県町村保健衛生連絡協議会代表 （湯河原町福祉部保健センター所長） 佐藤吉弘 神奈川県鎌倉保健福祉事務所三崎センター所長 大久保久美子 神奈川県安全防災局安全防災部災害対策課長 杉原英和 神奈川県保健福祉局保健医療部健康危機管理課長 芝山智		
次回開催予定日	未定		
問い合わせ先	保健福祉局保健医療部健康危機管理課 健康危機管理グループ 佐藤 電話番号 045(210)4634 (直通) ファックス番号 045(633)3770 (直通)		
下欄に掲載するもの	議事録	議事概要とした理由	
会議の議事	1 神奈川県災害医療対策会議の設置要綱の改定について 2 議事 (1) 地域の災害医療救護体制の強化について (2) 茨城県鬼怒川の水害に対するDMAT派遣 (3) 神奈川県地震防災戦略について (4) 箱根大涌谷の防災対応について (5) かながわDPATの体制整備について (6) 「マイME-BYOカルテ」を活用した災害時におけるお薬情報等の提供について 3 その他 <あいさつ> （長谷川保健医療部長） 当会議は、平成25年に設置し、今回で3回目の開催となりますが、大きな役割としましては、災害医療について、「より広範囲な災害時の医療救護のあり方を協議する場」として、平時を含む災害時医療のあり方などを検討するため、広く関係機関の皆さんの参画を求めて、協議を行う場であります。 今年、2016年は、東日本大震災から5年目という節目の年でもあり、災害医療の分野も、改めて様々な角度から注目を集めており、一定の成果を求められている状況にあります。 そうした中、昨年の当会議では、地域災害医療対策会議を設置すること、地域災害医療対策会議に地域災害医療コーディネーターを配置すること、地域災害医療コーディネーターを対象に研修を実施すること。		

大きく、この3点について、皆様にご了承いただき、今年度進めて参りました。

これらの点については、後ほど、事務局より報告をさせていただきますが、本日は、その他にも、DMAT及びDMAT-Lの状況、災害協力病院の指定状況、昨年9月に発生した、茨城県鬼怒川の水害に対するDMAT派遣に対する報告や、神奈川県地域防災戦略、箱根大涌谷の火山活動の説明等、議事が盛り沢山の内容となっております。

今回は、現在の県の様々な取組みについて、関係者の皆様と情報共有させていただくとともに、それに対する御意見などを伺い、今後の災害医療行政を推進していきたいと考えております。

委員の皆様におかれましては、貴重なお時間をいただいておりますので、是非とも忌憚のないご意見をお願いいたします。

本県の災害医療行政は、引き続き、オール神奈川の体制で進めて参りたいと考えておりますので、皆様におかれましては、今後とも一層の御理解御協力をお願いいたしまして、私からの挨拶とさせていただきます。

< 議事等 >

(事務局)

それではこれより、次第3の議題に入らせていただきます。「災害医療対策会議の設置要綱の改定について」ですが、この度の設置要綱の改定は、委員数の指定を削除することにより、新たに神奈川県災害医療コーディネーターになられた方を委員とし、また、今後は、より柔軟な運営をできるものとするためです。

また、当会議の任期は2年としておりますが、皆様には引き続き構成員として、どうぞよろしくをお願いいたします。

なお、任期に伴う、会長及び副会長について、当会議の会長と副会長は委員の互選により定めることとしております。

こちらにつきまして、どなたかご意見はございますか。

(和田委員)

小林委員に、引き続き会長をお願いしたいと思います。

また、森村委員、阿南委員に引き続き副会長をお願いしたいと思います。

(事務局)

本日、ご出席の委員の皆さま、ご承諾いただけますでしょうか。

また、小林委員並びに森村委員、阿南委員、ご了承いただけますでしょうか。

(出席全委員の了承及び小林委員、森村委員、阿南委員承諾)

(事務局)

それではこれより、議事の進行を小林会長にお願いします。

(小林会長)

未熟者ではございますが、職責を果たさせていただきたいと思えます。それではさっそく議事に入ります。

次第4の「(1)地域の災害医療救護体制の強化について」、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

資料2について、今年度を実施した地域災害医療コーディネーターの配置、地域災害医療対策会議の設置、災害協力病院の指定、平成28年度の年間スケジュール等について説明。

(森村委員)

スケジュールの確認ですが、今年のビッグレスキューかながわの開催地はどこですか。

(事務局)

横須賀で開催いたします。

(阿南委員)

地域災害医療コーディネート研修は、今年度についてもACT研究所にお願いするつもりですか。

(事務局)

はい、そのような形で考えております。

(阿南委員)

他の選択は考えず、ACT研究所にお願いするということでしょうか。研修の予算は取っておりますか。

(事務局)

何かご意見があれば調整はします。研修予算も確保しております。

(小林会長)

他にご意見はありますか。

なければ私から確認したいのですが、地域災害医療コーディネーターの名簿は、政令指定都市の名簿はまだ公表できない段階でしょうか。

(事務局)

政令指定都市については、横浜市6名、川崎市7名の方に地域災害医療コーディネーターとしてお願いしております。

相模原市につきましては、現在調整中です。

政令指定都市の地域災害医療コーディネーターについて、県が記者発表することはありませんが、名簿は確保してあります。

(小林会長)

最終的には政令指定都市も加えた名簿を完成させるようお願いいたします。

(森村委員)

私も小林会長と同じ意見です。更に将来的な話として、既に先行して地域災害医療コーディネーターと違う名称を使用している都市は、災害が起きた際、地域災害医療コーディネーターと違う名称だと分かり辛くなるので、名称の統一化を目指したほうが良いと思っております。

具体的には横浜市が違う名称なので、今後の課題として、よろしく申し上げます。

(小林会長)

さて、当会議は年に一度しかない会議でございますが、災害対策等が着々と進んでいる姿を拝見させていただいております。

最初に組み込まれた当会議の部会について、事務局より今後の方向性等について説明をお願いします。

(事務局)

部会は、定期的に行っているコーディネーター会議等で調整させていただき、必要に応じて関係者をコーディネーター会議にお呼びしようと考えております。

今後の方向性については、コーディネーター会議等にて調整後、事務局より案ができ次第報告いたします。

(小林会長)

案が固まるまでは、コーディネーター会議等で話を進めていくつもりであるということですね。

それでは続いて「(2)茨城県鬼怒川の水害に対するDMAT派遣」について、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

資料3、鬼怒川氾濫災害時に茨城県の要請に基づき、県のDMAT

26 チームを派遣したこと。現地でのDMA T活動や、神奈川県DMA T調整本部について説明。

(阿南委員)

神奈川県として、災害医療コーディネーター制度を導入されて初の災害支援でございましたので、今回はコーディネーターの立場として参集した方や、DMA Tの立場として参集した方、それぞれが役割の連携を意識しながら、更に役割も分担することを意識しました。

具体的には、森村委員と私が同時に参集した場合は、森村委員にはコーディネーターとして長期的な視点でJMATや保健師のサポートなどをご配慮いただき、一方DMA Tの調整を私が担当するのであれば、派遣や撤収等を調整し、トータルとして幅広い調整を実践できましたので、成果が得られたと思っております。

また、DMA Tの観点では様々に課題がありまして、今回の水害(局地災害)の難しさもいろいろな場面で検討されておりますので、この知見を今後、神奈川県にいかにか活かせるのかというのが課題と思っております。

(森村委員)

辛口な意見となりますが、今回の派遣において、神奈川県庁内のハード面の脆弱さが露見した案件だったと思えます。

テレビ、無線、そもそも携帯電話が繋がらないといった状態では、医療救護本部で指揮を取るの難しく、今後の重要な課題だと思っております。スキームとしては動きましたが、実際のオペレーションとして、このような状態では非常に苦労しますので、是非ご検討をお願いします。

(事務局)

現在、平成28年の夏以降に、安全防災局に医療救護本部を移転する調整を行っておりますので、よろしく願いいたします。

(小林会長)

今回の派遣については、関係者からの報告を纏めておくようにしてください。

それでは、次の議事「(3)神奈川県地震防災戦略について」及び「(4)箱根大涌谷の防災対応について」、杉原委員より一括して説明をお願いします。

(杉原委員)

資料4について、現行防災戦略が平成28年3月に対象期間が終了するため、平成25年度から26年度にかけて実施した地震被害想定調査

をもとに改定したこと。「減災目標」を定め、その目標を達成するために必要な対策について、数値目標や減災効果等を明示し、戦略的に防災、減災対策に取り組むための行動計画であることを説明。

資料5について、箱根山の火山活動状況の経緯及び本県と箱根町の防災対応についての概要を説明。

(後藤委員)

減災目標について、死者数は現時点での県内の人口に当てはめて算出しているのでしょうか。そうであれば、その旨を標記した方がわかりやすいと思います。

(小林会長)

死者数を半減させる目標の根拠はあるのでしょうか。

(杉原委員)

現状の被害を算出し、そこから逆算しております。

例えば、住宅の耐震化を進めていけば、死者が減っていきますが、耐震化が進まなければ、その分死者や負傷者が増えてしまいますので、そういった事項を積み重ねて数値目標を立てております。

(小林会長)

ハード面は理解できましたが、ソフト面、特に医療の活動によって数値が変わってこないかという部分も気になりますので、今後はコーディネーター会議等で議論も進めていければと思います。

また、こういった計画を策定する際に、自治体や郡市医師会等も含めて情報交換や会議は行っているのでしょうか。

(杉原委員)

検討会議に33市町村全てをお呼びすることはできませんでしたが、委員として、7市町の方に検討会議にご出席いただき、オブザーバーとしてもいくつかの市の方にご出席いただきました。

また、当戦略を策定するに当たって、何度か各市町村に対し説明会及び照会を行っております。

そのため、戦略内にある取組例に、各市町村のご回答を記載していただきます。

(小林会長)

それでは次の議事に移ります。「(5) かながわDPATの体制整備について」、保健予防課より説明をお願いします。

(保健予防課)

本県におけるDPA Tについて、資料6により、設置要領や運営委員会を設置したこと、DPA T研修を実施したことについて説明。

(小林会長)

DPA Tは急性期に対するアプローチが主となっておりますが、もっと世間にDPA Tの必要性を認識されてほしいこと、質だけでなく量である人数も必要になることを認識してほしいと思います。

また、慢性期も重要な課題のため、急性期ばかりではなく、慢性期にも配慮していくようお願いします。

それでは次の議事に移ります。「(6)マイME - BYOカルテを活用した災害時におけるお薬情報等の提供について」ヘルスケア・ニューフロンティア推進局より説明をお願いします。

(ヘルスケア・ニューフロンティア推進局)

資料7により、マイME - BYOカルテについての概要及び災害時の活用方法を説明。また、平成28年度の事業方針等を説明。

(森村委員)

今後、アプリケーション機能によっては、様々な効果が期待されますが、特に外部から支援に行く立場で考えれば、知らない方の情報が少しでも把握できるということですので、カルテが手元に無くともサーバー上にあるということであれば、非常に有用だと思います。

サーバーが強固であればユーザーにとっても安全で、医療従事者にとっても大きな武器になります。災害時限定ではなく、平時の際も有用になり得るので、様々な使い方をご検討いただければと思います。

(小林会長)

情報がひとつの場所に集まるというのは重要なことであり、期待も大きいと思います。

ただ、情報には難しい問題もありますので、十分ご注意ください。

(後藤委員)

現在、民間業者がこちらを行っていると聞いており、アプリに関しても様々な業者が関わっていて、本人同意の下でデータを収集しております。

ただ、その同意書に関しては非常にあやふやな部分が見受けられます。特に医薬品の情報を含む医療情報については重要な個人情報になりますので、そこを利用するということは、データの二次利用の危険性が非常に高いので、薬剤師会としては危惧している部分もあります。

	<p>また、現時点で電子版のお薬手帳もありますが、スマートフォンの利用者も限られておりますので、情報の集め方についてもまだまだ課題が残っていると思います。</p> <p>(ヘルスケア・ニューフロンティア推進局)</p> <p>同意書の扱い方についてもしっかりとした対応をしたいと思っております。また、スマートフォンやパソコンを主体とした対応を考慮しておりますが、使用していない方に対する対応策も併せて検討していきたいと思っております。</p> <p>(阿南委員)</p> <p>災害という観点では人の動きが大きいので、国家規模で事業等を想定した方がいいが、こちらは県としての事業なので、他都道府県が使用した際、いかに互換性を持たせることができるのかといった視点で事業を進めてほしいと思っております。</p> <p>また、他の分野で同じような試みがあった際、汎用性がなくなるといった問題もあるので、その辺りをどうかご配慮して進めてほしいと思っております。</p> <p>(小林会長)</p> <p>他にご発言がなければ、本日の災害医療対策会議は終了いたします。</p> <p>(事務局)</p> <p>次回の開催については、事務局から改めてご連絡差し上げますのでよろしくお願いいたします。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
<p>会 議 資 料</p>	<p>資料 1 神奈川県災害医療対策会議設置要綱</p> <p>資料 2 地域の災害医療救護体制の強化について</p> <p>資料 3 茨城県鬼怒川の水害に対するDMAT派遣について</p> <p>資料 4 神奈川県地震防災戦略について</p> <p>資料 5 箱根大涌谷の防災対応について</p> <p>資料 6 かながわDPATの体制整備について</p> <p>資料 7 「マイME - BYOカルテ」の提供について</p> <p>参考資料 神奈川県災害医療対策会議傍聴要領</p>